動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）

電話 （鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

91.9.9 No. 3460

9・1、9・8集会の大成功のうえに 9月反戦闘争の高揚をかちとろう

九・一六三里塚集会へ！

三里塚現地では、いま二期工事強行・強制収用、三里塚闘争圧殺策動が強まっている。それは、三里塚闘争の農地死守の原則を投げすて、条件闘争に走った脱落派（熱田派）によって、運輸省・公団との「話し合い」路線―闘争終結の攻撃が激化しているからだ。

いま運輸省と脱落派農民との間で、「空港問題の平和的解決」をかかげた「公開シンポジュウム」の準備が進められ、この十一月にも開かれようとしている。これは「学識経験者」と称するヤカラが運輸省・農民双方の意見を聴取し、空港問題の「解決策」を出そうというものだ。だがしかし、これは初めから「二期工事強行」の結論がわかりきっているではないか。運輸省が「二期工事凍結」など認める訳がないではないか。これは、初めから闘争を止めさせるための「セレモニー」なのだ。

あくまでも農地死守の原則を守りぬこうとする農民に対しては、これまでのように機動隊の暴力を前面におしたてた農地強奪―強制収用攻撃に出てくるのは必至である。「話し合いの場まで設定したのに、これに応じないから問答無用」、これが政府・運輸省の狙いなのだ。

反対同盟農民は、こうした中で不屈・非妥協・実力闘争の原則を堅持して、農地死守の闘いを貫いている。すでに十月十三日には全国総決起集会のよびかけを発しているが、これに先立つ九月十六日にも現地集会が闘いぬかれる。労農連帯の立場から、闘争勝利にむけて九・一六集会に参加しよう。

渋谷をデモをする交流センターの隊列（9・1）

反弾圧集会に結集を

九月十三日十八時 六本木・桧町公園

九一年第十六回「九・一四」反弾圧闘争が、九月十三日に開催される。これは争議団連絡会議などが中心になって毎年開催されているが、連合のもとに労働運動の総屈服状況が進むなかで、闘う労働組合・争議団に対する圧殺攻撃が激化している。

五月には、三多摩労組交流センターの中心になっている三多摩合同労組ケミカルプリント分会に対して、当該・支援あわせて五名に対する逮捕・起訴―刑事弾圧がかけられた。七月には五名とも保釈―奪還されたが、今後ともこうした職場・地域で不屈に闘いぬいている労組・労働者に対しての弾圧策動は、日本が侵略戦争のできる国内体制へと作り変えようとする攻撃が強まれば強まるほど、激化していくだろう。

戦争反対を貫き、闘う労働運動の強化・発展をかちとっていく上でも、この闘争は重要な意義をもっている。清算事業団闘争勝利のためにも、また流動化を開始した国鉄労働運動の中で勝利していくためにも、反弾圧闘争を闘おう。

米核空母「インディペンデンス」横須賀母港化反対を闘おう

九月十一日早朝、米第七艦隊に新たに核兵器搭載空母「インディペンデンス」が配備され、横須賀に入港する。これは老朽化した「ミッドウェー」と交代するためだが、より大型で艦載機も多い「インディペンデンス」の横須賀配備は、アジア・中東でのアメリカの軍事侵略体制の強化につながるものであり、反対しなければならない。

米第七艦隊は、「湾岸戦争」においても巡航ミサイル・トマホークや空母艦載攻撃機・爆撃機をもってイラク攻撃の中心戦力となった。アメリカの中東支配の中心に、日本を基地とした第七艦隊があったのだ。「インディペンデンス」の配備はこの強化を狙ったものだ。

また海上自衛隊は、横須賀入港に際して東京湾入り口で「洋上歓迎」を行おうとしている。掃海艇派遣以降、自衛隊が独自の軍隊として内外に振る舞おうとする一つの現れであり、許せるものではない。

十日夕刻、十一日朝から反戦共同行動委員会も配備反対闘争を闘うことを決定した。ともに闘おう。